



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

季刊
夏号
平成26年7月
Vol.3

特集

- ◆ 悠久千年の都 平安京の乾
 天空に北極星輝く || 天満宮 | 星欠けの三光門 |
- ◆ 修学旅行の聖地、北野天満宮
 熱い願いをこめて神前に誓い、
 | 修学旅行特別昇殿参拝学校一覧 |
 絵馬に願をかける



平安京イメージ図

北野天満宮の由来

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国の天満宮・天神社約一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の乾の地、北野の地に御鎮座いたしました。

天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が社殿を造営、北野祭は官祭に与り、朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、また臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇められました。

寛弘元年（一〇〇四）、一條天皇がはじめて行幸されて以来、歴代の天皇の行幸も二十数度に亘り、將軍家や有力大名の崇敬を受けております。

文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以て学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。

天神信仰は、千有余年の長い歴史の中で、人々の心の支えとなる神として篤い崇敬をうけ、各時代の社会構造と相まって継承され、「天神さま」と庶民・一般に至るまで親しまれてきました。菅公が生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生きています。

現在の社殿は慶長十二年（一六〇七）豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、八棟造という豪壮な建築様式を誇り国宝に指定されています。

表紙写真「史跡 御土居の紅葉」

境内西側には、豊臣秀吉公が洛中洛外の境界、また水防のため京都の四囲に築いた土塁「御土居」が、全長約300メートルにわたり当時の姿そのままに残存する。

国の史跡として指定され、四季に応じて様々な美しさを感じることができる御土居。なかでも秋の紅葉は菅公の御神徳を偲ぶかのごとく鮮やかに彩られ、かつて紙漉き場であった紙屋川には赤や黄に見事に染まった木々が水面に映え渡り、人々を錦秋の世界へ誘う。

表紙写真は、新緑の御土居と清流紙屋川、そして木製太鼓橋「鶯橋」である。近年では、瑞々しく生息する新緑の紅葉も見事で、「青紅葉」（あおもみじ）とも呼ばれ人々に親しまれている。



ご挨拶

千玄室会長ご来駕、天満宮講社大祭齋行



千玄室会長より天満宮講社発展に尽力の渡邊副会長へ感謝状の贈呈

梅雨の晴れ間の七月六日、千玄室裏千家大宗匠御参列のもと、北野天満宮講社大祭が執り行われましたこと、心より有難く厚く御礼申し上げます。

この天満宮講社は、平成十四年三月に千宗室（現玄室）奉賛会長、梶季嗣宮司（現名誉宮司）によって齋行されました御祭神菅原道真公千百年大萬燈祭、又ご奉賛いただきました大萬燈祭奉賛会終了後、引き続き北野天満宮の更なる天神信仰の昂揚、諸施設の充実等御支援いただく為に組織された講社であります。

千会長よりご挨拶いただき、今後の計画への支援と天神様への心強い奉賛の誠が会員に伝えられ、会員の方々はみな感銘を受けておられたと拝察致します。本年は次の半萬燈祭への中間の節目の年にあたり、この度施設の充実を図るため、境内整備工事等を計画し着手することと致しました。とりわけ前回断念せざるを得ませんでした天神信仰発揚の発信基地と位置付ける参集殿は、仮称「神社会館」として念願の着工、完成を目指すことになりました。

また、境内の整備、庭造り等の一端として、国宝『北野天神縁起絵巻』に描かれ、境内にもその名があります「紅梅殿」を西広場に移設し、御神霊をお慰めする場、紅梅殿別離の庭として再現し、梅花祭・曲水の宴他、様々な文化行事に活用致して参る所存でございます。完成後の尚一層充実した境内及び梅苑景観にご期待下さい。

工事中、参拝者の皆様にはご不便、ご迷惑をおかけすることと存じますが、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

北野天満宮

宮司 橘 重十九

「天神信仰と天神の祭り」第二回

京都大学名誉教授 上田 正昭



天皇行幸図 国宝 北野天神縁起絵巻(承久本)より

一條天皇北野行幸

それだけではないのです。寛弘元年、紫式部が『源氏物語』を書いている最中のころですが、西暦一〇〇四年一〇月二日、一條天皇が北野へ行幸される。そして歴代天皇が一條天皇の北野行幸を見習って神社に行幸されます。天皇が神社に行幸されるというのは極めて少ないんですけれど、いかに一條天皇が菅原道真公をあがめておられたかが分かります。

一條天皇が行幸された行幸始祭が、北野社では古くから行われておりましたが、終戦によって途絶えていました。しかし本年、橘宮司さん、加藤権宮司さんをはじめとする関係者の方々のご努力によって、めでたく再興されました。本当によかったと思っています。その再興をめぐって、橘宮司さんと天満宮の雑誌で対談をしていますので、機会があればお読みいただきたいと思います。

北野天満宮は官祭のお宮です。しかも平安京の京都御所の乾の方向にございます。西北側に当たるんですね。艮の方向には比叡山があり、上賀茂神社があり、下鴨神社がある。乾の方向には北野神社がある。護法のお社。天皇を守るお社。護国のお社。日本国を守るお社として発展していくことになります。菅原道真公が左遷されるときに、「東風吹かば匂ひをこせよ梅の花 主なしとて 春な忘れそ」と。この歌は皆さんもよくご存じかと思えます。和歌についても非常に通じておられた。特に漢詩はものすごく

くすぐれています。

文道の祖

平安時代中期の文人、慶滋保胤。この人名は難しい字ですが。保胤は菅原道真公を文道の祖であると。日本の学問の祖先であると。そして漢詩・漢文学の至境の主なりと書いているのは、誠に当たっていると思います。

現在でも合格祈願というので、天神さんにお参りする人がたくさんいますが、それだけではなく書道も。道真公の書は素晴らしい書が多いんですが、書道の神としてもあがめられています。歌の方では特に連歌の祖としてあがめられています。さらに芸能の神としても信奉されています。大阪天満宮の場合は、大阪の経済力と関係しています、商売繁盛の神としてもあがめられています。

なぜ道真公の信仰がこのように多様であったのか。それは単なる怨霊信仰の御霊であれば恐れるだけで、どうか静かに鎮まりくださいと、文字通りの鎮魂ですが。そうではなくて、それほどの力を民衆に、自分たちの暮らしを助けてくださいというお願いをする事になりました。

事実、道真公が和歌の天才の人であられたから。これについてはまたいくつか申し上げますので、どうか記憶のなかにとどめておいていただきたい。日本の学問でももちろんのこと、中国の漢詩や漢文学にも非常に造詣が深い方であります。



遣唐使の派遣中止

寛平六年の九月三〇日。ご存じのように菅原道真公は宇多天皇に、遣唐使の派遣を中止せよということを進言されます。停止の理由については大きく二つあります。

一つは、唐が国として衰えてきているということ。二つ目は、海賊が頻繁に出て航海が危険であるというところで、遣唐使の中止を申し出られる。教科書などに遣唐使の廃止を申請したというふうに書いてあるんですが、それは間違いで、一時やめるということです。

事実、その奏言をされてから後も、道真公自らもいつでも中国に行けるように、遣唐大使という称号はそのまま使っておられる。これは停止です。しかし結局、遣唐使は廃止ということになりました。

ご存じのように遣唐使は、舒明天皇の二年、西暦六三〇年から、承和五年、西暦八三八年まで一五回が中国に派遣されています。そのうちの二回は、中国から来た使節を送っていく遣唐使です。これは送唐客使と言いまして、唐のお客さんの使節を送っていく遣唐使です。

あとの一回は、阿倍仲麻呂のように中国に行った

んだけれども、日本へなかなか帰れない。中国へ入った日本の遣唐使を迎えに行く使節。これが一隊です。すから、正式の遣唐使は一五回のうち一二回ということになります。道真公は遣唐使中止を奏言することになります。

このように御霊の神さまの道真公の信仰は、非常にさまざまなかたちで発展します。芸能の神として、歌舞伎で有名な歌舞伎踊りの出雲阿国も北野で歌舞伎を奉納していますし、阿国の踊りは北野天満宮でも行っている。

渡唐天神

それだけではなく、道真公は実際に中国に行つたんだという信仰が興ってくる。これを渡唐天神と言います。こういう信仰があるということは、あまりご存じないかもしれませんが。



渡唐天神像

例えば京都の東福寺の聖一国師が、博多の崇福寺に行かれたときに、夢に渡唐天神が現れて、聖一国師に悟りを与えたといひます。遣唐使の中止を強く表明した道真公が、中国に渡つて学問をされるというような信仰が、和魂漢才の道真公の信仰でなければ起らない。

いかに漢詩・漢文に造詣が深かったのかは、道真公の『菅家文章』という非常にすぐれた詩集がありますが、これを何かの折にご覧になったら、いかに漢詩に秀いでた人であったかということとは分かる

思います。和歌に優れ、漢詩・漢文学に優れていた道真公は、和魂漢才の人であったということ。そして北野天満宮には、瑞饋祭をはじめ、重要なお祭りがございますが、それを実際に担ったのは天神の講社ですね。天神講がいつごろできたのかというのを調べたことがあります。鎌倉時代の中期には天神講があるんですね。天神さんをお祭りするために。そして特に連歌をしている人たちの連歌参りという、天神さまに参拝している多くの例があります。

このように、京都の北野天神の信仰は御霊だけではない、和魂漢才のご神徳は多様な発展をしました。学問の神さまであることはもちろんですが、歌の神さまであり、書の神さまであり、芸能の神さまであるという、多様な発展を遂げることになりました。

大阪の天満宮については、後で寺井宮司さんから、いろいろとお話があると思いますが、できたのは北野天満宮の創建も古く、天曆年中にできたと伝えられています。天曆元年は九四七年です。天曆という年号は一〇年間ですから、千年以上の歴史がある、関西では北野天満宮に次ぐお社が大阪の天満宮です。(つづく)



楼門の額「文道の大祖 風月の本主」

悠久千年の都 平安京の乾

天空に北極星輝く―天満宮

―星欠^かけの三光門―

北野天満宮権宮司 加藤 迪夫



◆悠久千年の都―平安京

延暦十三年（七九四）十月、桓武天皇が「万代の宮」と定めた都・平安京。悠久千年。

日本の首都―「京都」として日本の文化を先導してきた。四神相應の地、平安土の地として繁栄を続けてきた。

平安京は現在の京都市の中心部にあたる、山背国葛野・愛宕両郡にまたがる東西四・五km、南北五・二kmの長方形に区画された都城であった。都の北端中央に大内裏を設け、そこから市街中心に朱雀大路を通して左右に左京・右京を置き、羅城（都市を囲む城壁）は羅城門の左右を除き造られなかった。

この地の選定は中国から伝わった陰陽道（風水）に基づく四神相應の思想を取り入れて作られたとも云われている。

◆平安京の北西・乾に

北野天満宮は祀られた

北野天満宮は、天曆元年（九四七）創建、菅原道真公の御神霊を祀った神社であり、天神さまとして知られている。

全国にある約一万二千社の天満宮、天神社、北野社等の宗祀（総本社）、また天神信仰発祥の神社である。

北野の地は平安京の乾（北西）に位置。天門、天のエネルギー、パワーの働く地であった。歴史上の人物である菅原道真公を祀った都・平安京の文化と共に、北野天満宮の天神信仰は、やがて全国に学問の神として広まっていった。

◆天空―宇宙を司る神、天神

北野の地は、道真公を祀る約百年も以前、承和三年（八三六）「天神地祇」を祀り遣唐使の派遣成功を祈願した天神を祀る地であり、また農業神「雷神」を祀り五穀豊穡を祈願した神を祀る聖地であった。この地に神託により道真公を併せ祀ったのが北野天満宮の歴史である。

北野の地は、天空を司る天神を祀る地であった。



火之御子社



地主神社



雷神（北野天神縁起絵巻）

◆日・月・星―三辰信仰

三つの光の門 三光門

慶長十二年（一六〇七）、豊臣秀頼公によって造営された現在の国宝・御本殿以下一大建築群は、桃山時代を代表する建築物。八棟造・権現造と云われているが、創建当時の規模・形式を受け継いだ権現造（石の間造）の原型の建造物と云われている。御本殿前の中門は、日（太陽）・月・星の三



八棟造御本殿全景

つの光の彫刻があることから三光門と呼ばれる。古代より、太陽・月・星の運行が天皇・国家・国民の平和と安寧にかかわるとして崇拜する信仰・三辰信仰がある。天神さまの御本殿前に配した三光門は、天神信仰を物語る門といえる。



彫刻 一月



石の間

徳川家康公を祀り、家光公によって寛永十三年に建て替えられた豪華絢爛たる日光東照宮の大規模な建物群。南光坊天海によって北極星の耀く北の地・日光（栃木）が選ばれ、久能山（静岡）東照宮より遷された。東照宮の建築は、歴史上の人物菅原道真公を祀る北野天満宮の社殿の形式、権現造が用いられているのである。北野天満宮の本殿権現造は、人を神格化、神として祀るに相応しい建築形式であり、権力者であった豊臣秀吉公を祀る豊国廟、徳川家康公を祀る東照宮はこの形式によって建てられた。

◆星欠けの三光門

三光門の彫刻には、日と月はあるが星はないといわれる。

平安京当初、大内裏・大極殿のすぐ北に位置した天満宮。帝が当宮を遙拝される際、三光門の真上に北極星が瞬いていた。北極星は帝とも呼ばれ、天皇大帝として信仰された。そのため三光門には星の彫刻は刻まれていない、星欠けの三光門と云われている。



彫刻 一 太陽・日の出



彫刻 一 太陽・日の入り

◆日光東照宮の建築と

国宝北野天満宮本殿



写真提供 日光東照宮 陽明門

◆三光門と陽明門

日光東照宮に有名な陽明門がある。北野天満宮をモデルにしたといわれる東照宮。本殿をはじめとした権現造の建造物の中門として建てられた陽明門は、陰陽道の影響を受けていると云われているが、北野天満宮の中門三光門に対して建てられ、名付けられたのであろうか。



北野天満宮 三光門



写真提供 日光東照宮





厳かに講社大祭 天神信仰の昂揚を祈念 千会長ご挨拶「今後とも天満宮の総本社を支援する講社の活躍を祈念します」



本殿にて鈴舞を奉納する八乙女



玉串奉奠される千会長



拜殿参列者の様子



本殿前中庭 参列席の様子

北野天満宮講社（会長・千玄室裏千家大宗匠）の平成二十六年度講社大祭は七月六日午後一時半から本殿において厳かに斎行された。

中庭に設置されたテント内を含めて約三百五十人が参列される中、神饌と全国約二千五百人の会員名簿が神前に供えられ、橘宮司が祝詞を奏上し、天神信仰の益々の昂揚と会員の無病息災・家内安全・諸願成就を祈念した。

白衣・緋袴、おすべらかしの髪を花で飾った八乙女が鈴舞を優雅に奉納した後、橘宮司、千会長が玉串をささげて祭典を終えた。

天満宮講社は、平成十四年斎行の千百年大萬燈祭を支えてきた組織を発展的に継承した会であり、本年は発足以来、平成三十九年斎行の千百二十五

年半萬燈祭までのちょうど中間の節目に当たる。このため、発足以来、講社の発展に尽力されてきた役員（百八十六人）、会員（三十一名）を顕彰することとなり、その代表として渡邊隆夫副会長に千会長から感謝状が手渡された。

この後、千会長が「ご承知の通り北野天満宮は全国の天満宮の総本社です。支援する天満宮講社が平成十四年の大萬燈祭終了後、新しく結成され、皆様方のご浄財を頂戴し、史跡御土居の整備などに尽力させて頂きました。今後も御土居整備を続けていく所存です。北野天満宮は学問のお社、また、文化のお社として全国からたくさんのお参りがあり、私たちもその御恩徳・御神徳をありがたく頂戴しております。本年度は、平成三十九年の半萬燈祭までの丁度中間の節目に当たっており、講社が大いに活躍しなければと思っており、皆様方の変わらぬご支援をお願いしたいと思えます」と、挨拶された。

祭典・諸行事の終了後、本殿前中庭の舞台でも八乙女の鈴舞の披露が行われ、多くの参拝者が見守った。

鈴舞を奉納した八乙女は、次のみなさん。
後藤初寧・成田悠香・青山璃南・青山愛実・泉珠以・野々口寿璃・人見麻香・中島花音

役員顕彰者

《感謝状贈呈二十七名》

中井宗一様 渡邊隆夫様 岸本藤三様 小石原満様 鈴鹿且久様 中村泰子様 松村新次郎様 宮階有二様 堂本大王様 川中粲様 秋江義弘様 阿部乙彦様 池本馨様 今村宗幸様 太田達様 岡本清様 黒竹節人様 太田紀美様 田村國勝様 樋口貴久様 藤田典生様 本郷和子様 宮川正貴様 宮本悦子様 山本久仁佳様 吉岡節子様

《記念品贈呈百五十九名》

稲盛和夫様 伊吹文明様 千宗左様 千宗室様 千宗守様 塚本能交様 二條雅莊様 蜂谷宗玄様 速水宗樂様 藪内紹智様 渡邊琢宗様 堀内宗完様 大倉敬一様 中川喜博様 西田寛様 森田嘉一様 吉田忠嗣様 布垣豊様 藤井忠雄様 塩尻良市様 饗庭智之様 井狩誠様 稲田和子様 内田昌一様 木村卯兵衛様 国枝克一郎様 村上利行様 高津博行様 畑正高様 福井正典様 舞鶴一雄様

松宮嘉一郎様 松村幸一郎様 南忠政様 山下寛一郎様 土肥忠夫様 伊住弘美様 安孫子正孝様 古府志珠様 渡邊長年様 神部良一様 志賀英和様 太田興秀様 芦田友秀様 雨宮禮子様 五百木秀和様 石井昭三様 磯崎幸昌様 井堂雅夫様 井田和彦様 稲田貴美子様 今井正治様 今井重夫様 入江正信様 入江善五郎様 永瀬善久様 麻植輝久様 大久保謙二様 大久保敏雄様 大串頼長様 大塚宗香様 大野宗恵様 大東寛伸様 岡田憲政様 岡野直臣様 奥田真紀様

奥田英一様 小田昭彦様 加藤雄彦様 川井清人様 川嶋実人様 木曾耕一様 北野宗道様 木保行雄様 桐村宗翠様 杭迫柏樹様 久保山貞彦様 熊谷直久様 黒田正玄様 小西重利様 小山茂樹様 佐伯昌和様 酒井貞治様 財木孝太様 西條和一様 重清美恵様 茂山千五郎様 茂山良暢様 菅野雄仁様 杉本貞雄様 鈴木宗貞様 鈴木美智様 千田日出雄様 竹内勤様 竹端満枝様 田中一男様 北中孝幸様 多門宗粒様 徳岡孝二様

中野耕輔様 中野廣房様 西澤宗房様 西村尹男様 西村彦兵衛様 西脇功太郎様 野村佐太雄様 長谷川義貢様 桑名弘二様 半田宗昭様 比賀江博三様 日比野光鳳様 平澤あさ尾様 福井洋太郎様 藤井讓治様 前田宗音様 松本勝也様 三好正晃様 矢口雅彦様 吉川蕉仙様 吉積潔様 吉積増太郎様 吉積秀樹様 鷲谷泰造様 相模泰造様 坂田憲男様 野口龍夫様 関照代志様 北村隆一様 濱内厚美様 馬場康造様 和田昭昭様 上野高男様 北川安彦様 入江紀男様



祭典終了後、中庭にて舞舞奉納

鶴殿忠秋様 福井和久様 小川晃弘様 八木裕美様 横田宗重様 井田美子様 疋田聡様 北川進一様 今康博之様 吉田貞太郎様 高橋史郎様 川口達也様 藤原宗一良様 石谷壽弘様 平澤勢太郎様 西阪尚之様 川本光春様 北脇康藏様 中村瑛治様 水島清寿庵様 竹内靖博様 田中誠司様 吉田秀隆様 吉積昌治様 長嶋秀樹様 中野淑夫様

個人顕彰者

《三十一名》

市木美江様 市木勇気様 市木一晴様 市木享子様 中村眞美子様 山本哲男様 村尾幸子様 渡辺孝史様 武藤絹枝様 真下保太郎様 河原畑久男様 野地暁様 川地良子様 加藤邦男様 井本義光様 岩崎正太郎様 遊佐毅様 中井秀樹様 佐野裕二様 鈴木義明様 安田龍男様 遠藤幸太郎様 高西善海様 三角光浩様 柴田晃一郎様 井田鏡郎様 三條嘉子様 柏野嘉子様 野田行雄様 野田善実様 垣口善実様 (順不同)

北野天満宮の四季折々の風景や

多彩な行事の数々を紹介します。

十万枚の願いを炊き上げ

昨年度一年間に入試合格、学業向上など様々な願いを込めて絵馬掛け所に奉納された古絵馬約十万枚を焚き上げ、願掛けされた人たちの無病息災を祈願する古絵馬焼納式を四月三日午前十時から中ノ森広場で斎行した。

しめ縄を張り巡らした斎場には絵馬が積み上げられ、祝詞奏上の後点火、絵馬は音をたてて激しく燃えた。焚き上げは四時間がかりとなったが、その間神職が交代で絶え間なく大祓詞を奏上した。



古絵馬焼納式



賣茶本流献茶式

賣茶翁が茶祖

煎茶の賣茶本流の献茶式が四月十三日午前十時から本殿で斎行された。同流は、江戸時代中期、賣茶翁の名で呼ばれた高遊外を茶祖とする煎茶道で、献茶式は昭和二十七年以来毎年執り行われている。

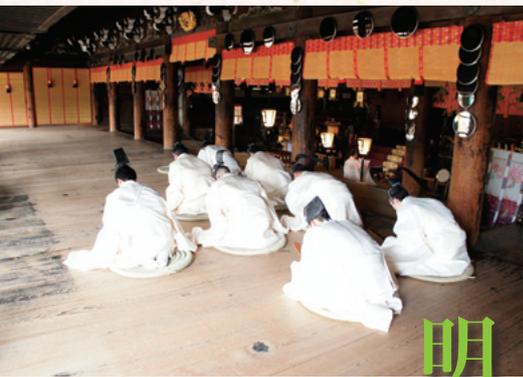
社中の人々が参列される中、十世家元渡邊琢祥宗匠の奉仕で神前に煎茶が献上された。献茶式の後、明月舎に茶席が設けられた。

無実の喜び神前に奉告

御祭神菅原道真公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、その喜びを神前に奉告する明祭を本殿で午前十時から斎行した。

従二位右大臣の位にあつた菅公は昌泰四年(九〇二)正月、左大臣藤原時平の讒言により無実の罪をきせられ大宰権帥に左降され、二年後の延喜三年(九〇三)二月二十五日、失意のうちに大宰府で薨去された。

二十年後の延長元年(九二二)四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位を一階級上げて正二位が追贈され、左降の文書はその日のうちに焼却された。ちなみにその後も正暦四年(九九三)六月に正一位左大臣、同年閏十月には太政大臣を追贈されている。



明祭

神輿、氏子区域を渡御

「文字さん」「文字祭」と呼ばれて親しまれている末社文字天満宮の例祭が四月十七日から二十日まで四日間におたつて斎行され、神幸祭・還幸祭ともににぎやかに神輿が渡御した。

文字天満宮は、当宮創建に携わった多治比文字が最初に菅公をお祀りした宅地跡を霊地として建てられたが、明治初期に当宮内の現在地に遷された御社である。

神幸祭の十七日は午後二時から文字天満宮前で祭典を斎行し、御神霊が遷された神輿は、神職や西之京瑞饋神輿保存会の人たちがお供し、同天満宮御旅所(上ノ下立売通天神筋上ル)まで渡御した。

還幸祭の二十日は午後一時から御旅所で祭典を斎行、神輿は再び保存会の人たちに護られ、威勢よく氏子区域を巡行、文字天満宮まで還幸した。

文字天満宮祭



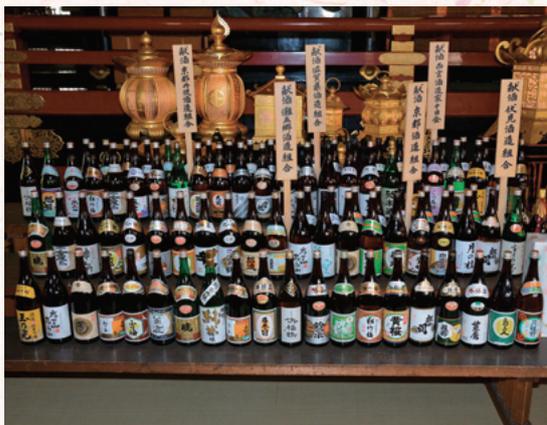


献酒祭

神前に神酒供えて感謝

神前に新酒を供え、よい酒ができたことに感謝する献酒祭を五月十四日午前十一時から本殿において斎行した。室町時代、西ノ京の当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が付与されたという歴史から、酒造関係者の崇敬が続いている。

酒造組合や酒造会社の代表らが参列し、よい酒ができたことに感謝するとともに、酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の息災を祈願した。



献酒に関わる酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同・敬称略）

佐々木酒造／松井酒造／宝酒造／増田徳兵衛商店／豊澤本店／黄桜／東山酒造／齊藤酒造／北川本家／山本本家／月桂冠／山本勘蔵商店／京姫酒造／平和酒造／藤岡酒造／キンシ正宗／玉乃光酒造／鶴正酒造／都鶴酒造／招徳酒造／城陽酒造／丹山酒造／関酒造／大石酒造／長老／羽田酒造／浪乃音酒造／平井商店／古川酒造／太田酒造／暁酒造／松瀬酒造／矢尾酒造／愛知酒造／藤居本家／沢の鶴大坂支店／白鶴酒造大阪支社／本野田酒造／日本盛／北山酒造／白鷹／松竹梅酒造／辰馬本家酒造／國産酒造／万代大澤醸造／大澤本家酒造／大関／今津酒造／櫻正宗／菊正宗酒造／小山本家酒造 灘浜福鶴蔵／剣菱酒造 泉勇之介商店／安福又四郎商店／福徳長酒類関西支店／木下酒造／福光屋／三宅本店／奈良豊澤酒造／伏見酒造組合／滋賀県酒造組合／西宮酒造家十日会／灘五郷酒造組合

修学旅行参拜



昇殿参拜ピーク

中学生を中心とする修学旅行生の昇殿参拜が、五月から六月にかけてピークを迎えている。本殿前の中庭は、御祈祷の順番を待つ中学生で連日大にぎわい。授与所では、入試合格祈願の学业守や学业鉛筆を受ける学生の長い列が続いた。



暁暗の祭典 火之御子社例祭 御守・御札授与にぎわう



雷除大祭

雷除大祭の通称で知られる撰社火之御子社の例祭を六月一日午前四時から齋行した。
 火雷神を祀る火之御子社は、天曆元年（九四七）の当宮鎮座より前からこの地にあり、「北野の雷公」と称せられ雷電・火難・五穀の守護として朝廷の篤い崇敬を受けた。現在では雷除けの信仰が主となり、電力会社を始めとする電気工事従事者、釣り人・ゴルフ愛好家の参拝も増えている。
 祭典は開門前の暁闇の中で齋行され、古式に基づき火打ち石で浄火を点じた後、火之御子社神前で雷除けの御守・御札に遷霊し、雷除けと五穀豊穰を祈願した。お祓いした御守・御札（かつては千人限定の授与で千体札と称せられた）は午前五時の開門とともに参拝者に授与され、終日にぎわった。

北野の地に当宮鎮座の日



宮渡祭

当宮が北野の現在地に鎮座された日に当たる六月九日、本殿で午前十時から宮渡祭を齋行した。
 天曆元年（九四七）、西ノ京七条二坊に住む多治比文字・近江国比良宮の神主、神良種・北野朝日寺の僧最珍らが協力して現在地に天満宮を建立したのが同年六月九日のことであり、毎年この日に宮渡祭を齋行している。

一週間がかり、二・五トンを収穫



正月の縁起物「大福梅」となる梅の実の摘み取りが六月七日から約一週間がかりで行われ、例年通り約二・五トンを収穫した。
 梅とゆかりの深い当宮境内には約五十種類・千五百本の梅の木がある。「大福梅」は、正月の祝膳には欠かせない縁起物で、摘み取り作業は、例年この時期に行われている。

二條流家元がお点前



二條流献茶式

煎茶道の二條流の献茶式が六月八日午前十時から本殿で齋行された。
 社中の約百人が参列される中、二條流莊家元が煎茶をお点前され、神前に捧げられた。式典後、明月舎で茶席が設けられた。



梅の実採取



「夏越天神」にぎわう

本殿では厳肅に御誕辰祭



御誕辰祭

菅原道真公のお誕生日に当たる六月二十五日、御誕辰祭を本殿において厳かに齋行した。本殿では恒例の「大茅の輪くぐり」が行われ、夏の健康を願う参拝者で終日にぎわった。毎月二十五日が天神さまの御縁日とされているが、とくに六月の御縁日は「夏越天神」とも呼ばれ、本殿に取り付けた大茅の輪をくぐって夏の健康を願う信仰が定着している。御誕辰祭は、前夜から精進齋のため神社に参籠し、齋戒していた宮司以下神職の奉仕により、午前九時から本殿において厳肅に齋行された。祭典後、菅公の母君を祀る伴氏社を巡拝した。

本殿の「大茅の輪くぐり」は、午前五時の開門と同時に始まった。大茅の輪は、神職・職員が南丹市美山町や右京区京北町から刈り出した茅を青竹に巻き上げたもので、直径約五メートルという京都では最大級の大きさ。

この日は終日参拝者が途絶えず、次々と大茅の輪をくぐって夏の健康と息災を祈願していた。



大茅の輪くぐり

半年間の罪・穢れを祓う



夏越の大祓

夏越の大祓式を六月三十日午後四時から本殿前中庭で齋行した。今年半年間に身についた罪や穢れを祓い清め、すがすがしい身体で夏を越すことを願う神事で、崇敬者・参拝者約七百人が参列した。全員で大祓詞を奏上した後、各人が切麻にて邪気を祓い、神職を先頭に参列者が中庭に設けられた背丈ほどの茅の輪を古式通り三回くぐり抜け、災厄を祓った。



園児ら歌・遊戯を披露

七夕の七月七日、伝統の御手洗祭・棚機祭（七夕祭）を齋行した。

「ひこ星の行あひをまつかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」と、菅公が七夕の御歌を詠まれた故事にちなみ、古くから行事齋行の記録があり、とくに当宮の七夕の神事は御手洗祭と称され、重要な祭典の一つとされてきた。

御手洗祭は、午前十時から本殿で、菅公御遺愛と伝わる「松風の硯」や季節の夏野菜をお供えして齋行。午後からは境内中ノ森広場において氏子区域の幼稚園児・保育園児約三百人の参列のもと、棚機祭（七夕祭）を齋行した。

様々な願いごとを書いた笹飾りが、ずらりと並ぶ中で祭典が進み、園児らは小さな手を合わせて、文芸の上達を祈願した。



七夕

自衛消防訓練

夏の文化財防火期間にあたる7月14日、当宮において上京消防署と当宮自衛消防隊・翔鸞学区自主防災会・翔鸞消防分団などの連携による防火訓練を行う。



新茶奉納奉告祭

7月25日、宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・和束・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城の茶所より摘まれた新茶を神前に供え、献茶家の家内安全と繁栄を祈願する。



例祭（北野祭）

永延元年（987）8月、北野社を一條天皇が初めて行幸されるに際し、「天満宮天神」の称号が与えられ、北野祭を勅祭として斎行された。爾来、天皇の行幸は二十数度に亘り、古来勅使も参向した最も大切な祭典。責任役員以下関係者多数参列のもと、大祭式で厳粛に斎行される。

奉納図画展

夏休み恒例となっている奉納図画展が8月中旬より西廻廊で開催され、子供たちが描いた力作を展示する。



氏子である西ノ京の神人、農家より丹精こめて作られた夏野菜が奉納される。

祭事暦 (7月1日~9月30日)

[7月]

- 7月 1日 午前10時 月首祭
- 6日 午後1時半 北野天満宮講社大祭
- 午後4時 御手洗祭前夕饗
- 7日 午前10時 御手洗祭
- 午後1時半 棚機(七夕)祭
- 12日 午前10時 當日祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 25日 午前9時 月次祭
- 午前11時 新茶奉納奉告祭
- 午後4時半 夕神饗

[8月]

- 8月 1日 午前10時 月首祭
- 4日 午前9時 例祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時半 夕神饗
- 31日 午後3時 奉納図画展授賞式

[9月]

- 9月 1日 午前10時 月首祭
- 8日 午後4時 明月祭
- 15日 午前10時 月次祭
- 23日 午前10時 秋季皇霊祭遙拝式
- 24日 午前9時 ずいき祭神輿飾り
- 25日 午前9時 月次祭
- 午後4時 夕神饗

月釜献茶 (7月1日~9月30日)

[7月]

- 7月 1日 献茶祭保存会 金澤 宗維 (明月舎)
- 13日 梅交会 合同茶会 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 藪内燕庵社中 (明月舎)
- 松向軒保存会 近藤 宗文 (松向軒)
- 27日 紫芳会 土屋 宗昭 (松向軒)

[8月]

- 8月 1日 献茶祭保存会 官和会 (明月舎)
- 10日 梅交会 休会 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 休会 (明月舎)
- 松向軒保存会 休会 (松向軒)
- 24日 紫芳会 休会 (松向軒)

[9月]

- 9月 1日 献茶祭保存会 不審菴社中 (明月舎)
- 14日 梅交会 鈴木 宗青 (松向軒)
- 15日 献茶祭保存会 北野 宗道 (明月舎)
- 松向軒保存会 杉山 宗喜 (松向軒)
- 28日 紫芳会 新居 万太 (松向軒)



大福梅土用干し

塩漬けされた梅を本殿前中庭にてカラカラに干し上げる。
この梅は12月13日の事始めから「大福梅」として授与する。



奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと祭典を斎行した後、授賞式を行う。

「国宝 北野天神縁起絵巻」を読む

同志社大学文学部教授

竹居明男

「天神化現（幼児化現）」説話

前回に写真で掲げた第一巻巻頭の詞書には、序文に相当する文章が続いて、道真公の伝記の最初のエピソードである「幼児（幼稚）化現」の段がある。まずは、その詞書の文章を掲げておこう。

菅原院と申すは、菅相公の家也。相公平生（へいせい）の其上、彼の家の南庭に、五、六歳許りなる小児の遊び給ひけるを相公見給ひて、容顔たゞ人にあらずと思して申し給ふやう、「君は何れの家の子男ぞ。何によりて来り遊び給ふぞ」との給ふに、児答へ給ふやう、「指せる定まれる居所もなし。父もなく母もなし。相公を親とせんと思ひ侍る」と仰せられければ、相公返すく「悦びて掻き抱き給ひけり。此を「菅贈大相国とは申す也」と日記には侍り。

道真公は、史実としては菅原是善（八一二〜八八〇）の三男として承和十二年（八四五）に生まれた。母親は「伴氏」とのみ伝えられ（系図集『尊卑分脈』その他）、誕生日は六月二十五日とされる。

もともと菅原氏は、道真公の曾祖父にあたる土師（はじ）

古人が、桓武天皇に願ひ出て菅原改姓が許されたところから始まり、以後、祖父清公（七七〇〜八四二）延暦の遣唐使として入唐し、文章博士従三位に至る。『凌雲集』以下の勅撰漢詩集の撰者を務めた）、父是善（文章博士を経て参議従三位に至る。官撰国史『日本徳天皇実録』の撰者の一人）の三代にわたって文人・学問の家として次第に重きをなしてきた家柄である。なお道真公の伯父善主（八〇三〜八五二）も、承和の遣唐使として入唐している。

ところが縁起が語るところによれば、ある時、菅相公こと菅原是善が、自邸の「菅原院」南庭で、容貌が普通の人と思われない五、六歳の幼児が遊んでいるのを見出し、是善を父親にしたいと答えたので、大変喜んで掻き抱き、育てることになった、とされておおり、すでに道真公は、人間ならぬ「権者の化現」にふさわしい出現の仕方となっている。詞書末尾の「日記」の正体は不明だが、先行史料の存在が判明しており、おそらく平安時代後期には、こういった「天神化現」説話が成立しており、それに拠ったものと推測される。





菅原院の情景

菅原院における「幼児化現」の段

菅原院は、鎌倉時代末期頃に成立した一種の百科事典『拾芥抄』に「勘解由小路南、烏丸西」、すなわち平安京の左京一坊三条十二町にあつたとされる方一町の邸宅で、現上京区烏丸下立売下の堀松町に鎮座する菅原院天満宮神社は、その跡地の一角に該当する。

さて、この文章に対応する画面は、全十紙にわたって長大に描かれており、まずは菅原院の檜皮葺の門の内外の情景から始まる。

門の外では、今しも牛車から降りて、堀割に懸かる橋を渡ろうとしている貴人や、隨身、多数の従者らしき人々が描かれ、立派な馬具を着けた馬のほか、思わせぶりの牛の姿も目立ち、別の牛車の轆なぐさにぶらさがっている子供の姿も描かれている。

門内でも、建物の簀子縁すいじりぞりで立ち話をする貴人や隨身、従者、さらには牛飼童などの姿が見え、賑やかな様子である。しかし、以上のほぼ七紙を占める情景に対応する詞書は、先に引用したように全く無く、ようやく本題の「幼児化現」の場面が残り三紙に現れるのである。

画面を斜めに区切る渡り廊の屋根の奥、簾を巻き上げた建物の部屋において、烏帽子・直衣のうし姿の是善が青畳の上に座し、広い簀子縁の上には、振り分け髪のかわいらしい子供が対座している。まさに道真公の生涯を決する、ある意味では緊迫した一場面であるが、おりしも画面下に大きく描かれる庭園には、屈曲する遣水の周辺に植えられた桜・松・柳・紅梅白梅の姿が目立ち、春風駘蕩の趣とともに、道真公

の前途が暗示されているようでもある。

なお、以上のような由緒とともに、現菅原院天満宮神社には南面する本殿の右手に「菅公御産湯の井」があり、古来、菅公「御誕生旧跡」と伝えられている。しかし道真公の「生誕地」伝承は、京都市内の他の天満宮や、京都以外の地にもあり、学問的に結論を下すのは難しいのが現状である。

(つづく)



菅原是善と道真公との対座

修学旅行の聖地、北野天満宮



豊臣秀頼公御造営「国宝 本殿」での昇殿参拝の様子

熱い願いをこめて
神前に誓い、絵馬に願をかける

全国に一万二千社ある天満宮・天神社。その宗祀・総本社である北野天満宮。天神信仰発祥の神社です。全国より中学生・高校生をはじめ、学業成就・入学試験合格・各種試験合格等々を願う人々で年中参拝者が絶えません。

特に春と秋の修学旅行シーズンには、個人・グループ・クラス単位・学校単位で特別昇殿参拝祈禱を申し込まれ、修学旅行のメッカとしても絶大な人気を集めています。

神前に真剣にぬかづく熱心な生徒の姿に、日本人の心、誠のこころが見られる心む風景です。

本年も四月から七月にかけ、関東・東北・中部方面の中学校を中心に、およそ七五〇校、約一九〇〇クラスが昇殿し、入試合格・学業成就を祈願いたしました。また授与所では、学業守や学業鉛筆・祈願絵馬を受ける学生の長い列で本殿前の中庭は賑わい、絵馬書所では志望校への合格の願いを真剣に絵馬に書く生徒達、牛社に絵馬を掛けて合格を願う人々の熱気で溢れています。

クラス単位の昇殿参拝の皆さん

年々、修学旅行の学校・クラス単位の昇殿参拝が増えています。クラスの全員が国宝本殿に昇殿し、各クラス代表生徒の玉串奉奠に合わせ、各自が学業の向上・入試合格等を願い、神前に手を合せて願う真剣な姿。天神様の御神徳により、学校全体・クラスの成績向上・入試合格の良い成果が期待されます。

班単位の昇殿参拝の皆さん

学校・クラス単位ではなく、各自の希望で個別プランを作り、タクシー・市バスを利用し、班単位で行動される生徒の方々が、多数班別に昇殿参拝をされています。希望の昇殿参拝であり、真剣な眼差しで天神様に参拝しています。





自由参拝の生徒の皆さん

昇殿は時間等の関係で出来ませんが、天神様の大前で参拝をする多くの生徒の皆さんです。遠方より来られ、北野天満宮に参拝出来たことに満足され、学業守を受け、絵馬に願を掛けて学校へ帰っていかれます。

牛社に絵馬に願いを込めて

願いが必ず成就すると云われる天神さんの牛社。一願成就所です。絵馬に入試合格・試験合格の願いを書き、祈りを込めて絵馬を掛ける学生・生徒の皆さんです。

修学旅行参拝者（平成二十六年四月一日～七月二十日）

| | | | |
|----|-----------|---------|-----------|
| 四月 | 昇殿参拝 一五〇校 | 三四七クラス | 自由参拝 一四三校 |
| 五月 | 昇殿参拝 三〇一校 | 八〇九クラス | 自由参拝 三六四校 |
| 六月 | 昇殿参拝 二五三校 | 六三五クラス | 自由参拝 三五五校 |
| 七月 | 昇殿参拝 二七校 | 六三三クラス | 自由参拝 五七校 |
| 合計 | 昇殿参拝 七三二校 | 一八五四クラス | 自由参拝 九一九校 |

〔但し、お申し出を頂いた数〕

※その他、タクシー参拝・班別参拝等を合わせると

およそ三十万人の修学旅行生の方々が参拝されました。

此の度の参拝を心の支えとされ、又天神さまのご加護により

ご祈願の成就をお祈り申し上げます。

藤岡市立東中学校 三クラス
富岡市立南中学校 三クラス
千代田町立千代田中学校 二クラス
板倉町立板倉中学校 二クラス
明和町立明和中学校 三クラス
呂楽町立呂楽中学校 二クラス
みなかみ町立月夜野中学校 三クラス
みなかみ町立水上中学校 二クラス



●埼玉県

さいたま市立大原中学校 一クラス
さいたま市立本太中学校 五クラス
さいたま市立岩槻中学校 四クラス
開智高等学校 四クラス
さいたま市立桜山中学校 一クラス
さいたま市立城北中学校 四クラス
さいたま市立大谷中学校 二クラス
さいたま市立七里中学校 一クラス
さいたま市立大砂土中学校 二クラス
さいたま市立土屋中学校 一クラス
さいたま市立馬宮中学校 一クラス
さいたま市立大成中学校 一クラス
さいたま市立第二東中学校 一クラス
さいたま市立大宮南中学校 二クラス
さいたま市立与野西中学校 二クラス
さいたま市立南浦中学校 二クラス
さいたま市立白幡中学校 二クラス
さいたま市立日進中学校 二クラス

さいたま市立土呂中学校 一クラス
さいたま市立植竹中学校 一クラス
さいたま市立泰平中学校 一クラス
さいたま市立東浦和中学校 五クラス
さいたま市立尾間木中学校 一クラス
羽生市立西中学校 三クラス
羽生市立東中学校 二クラス
越谷市立千間台中学校 三クラス
越谷市立富士中学校 一クラス
越谷市立南中学校 四クラス
越谷市立大袋中学校 四クラス
加須市立加須東中学校 二クラス
加須市立加須北中学校 二クラス
加須市立加須平成中学校 一クラス
加須市立昭和中学校 二クラス
吉川市立中央中学校 三クラス
吉川市立南中学校 二クラス
久喜市立菖蒲中学校 三クラス
久喜市立久喜東中学校 一クラス
熊谷市立玉井中学校 一クラス
熊谷市立江南中学校 三クラス
熊谷市立三尻中学校 一クラス
熊谷市立熊谷東中学校 三クラス
熊谷市立富士見中学校 三クラス
幸手市立西中学校 一クラス
行田市立行田中学校 三クラス
行田市立忍中学校 一クラス
三郷市立彦糸中学校 三クラス
三郷市立早稲田中学校 四クラス
春日部市立大増中学校 二クラス
春日部市立大沼中学校 三クラス
春日部市立豊野中学校 一クラス
春日部市立春日部中学校 五クラス
上尾市立上尾中学校 四クラス
上尾市立上平中学校 二クラス
上尾市立大石中学校 三クラス
新座市立第二中学校 五クラス
深谷市立南中学校 一クラス
深谷市立岡部中学校 四クラス
深谷市立幡羅中学校 一クラス
深谷市立藤沢中学校 三クラス
川口市立安行東中学校 二クラス
川口市立芝東中学校 二クラス
川口市立西中学校 四クラス

川口市立戸塚中学校 四クラス
川口市立南中学校 三クラス
川口市立上青木中学校 三クラス
川口市立榛松中学校 四クラス
川口市立戸塚西中学校 五クラス
川口市立神根中学校 三クラス
川口市立十二月田中学校 三クラス
川口市立東中学校 二クラス
川口市立元郷中学校 一クラス
川口市立北中学校 七クラス
川口市立八幡木中学校 二クラス
川口市立鳩ヶ谷中学校 三クラス
川口市立里中学校 二クラス
秩父市立秩父第二中学校 一クラス
朝霞市立朝霞第一中学校 三クラス
日高市立高根中学校 二クラス
八潮市立八潮中学校 二クラス
飯能市立加治中学校 三クラス
飯能市立飯能第一中学校 三クラス
杉戸町立東中学校 一クラス
杉戸町立杉戸中学校 二クラス
本庄市立本庄南中学校 一クラス
蓮田市立蓮田中学校 二クラス
さいたま市立西原中学校 一クラス
さいたま市立柏陽中学校 三クラス
さいたま市立土合中学校 二クラス
さいたま市立大谷口中学校 二クラス
越谷市立北中学校 五クラス
越谷市立北陽中学校 三クラス
吉川市立東中学校 二クラス
久喜市立太東中学校 二クラス
久喜市立栗橋東中学校 二クラス
戸田市立東中学校 一クラス
戸田市立笹目中学校 二クラス
三郷市立前川中学校 二クラス
春日部市立豊春中学校 二クラス
春日部市立中野中学校 四クラス
上尾市立原市中学校 四クラス
上尾市立太平中学校 二クラス
上尾市立大谷中学校 二クラス
新座市立第六中学校 三クラス
寄居町立寄居中学校 四クラス
寄居町立男衾中学校 一クラス

宮代町立須賀中学校 二クラス
入間市立武蔵中学校 三クラス
北本市立東中学校 五クラス



●千葉県

印西市立印西中学校 一クラス
栄町立栄中学校 二クラス
浦安市立浦安中学校 二クラス
浦安市立美浜中学校 一クラス
浦安市立堀江中学校 一クラス
浦安市立富岡中学校 五クラス
浦安市立見明川中学校 三クラス
我孫子市立久寺家中学校 二クラス
我孫子市立白山中学校 六クラス
鎌ヶ谷市立第五中学校 二クラス
佐倉市立志津中学校 三クラス
佐倉市立白井中学校 一クラス
佐倉市立根郷中学校 一クラス
山武市立成東東中学校 二クラス
山武市立山武南中学校 三クラス
山武市立成東中学校 二クラス
四街道市立四街道中学校 一クラス
四街道市立千代田中学校 一クラス
四街道市立四街道西中学校 一クラス
市原市立双葉中学校 三クラス
市原市立渥津中学校 一クラス
市原市立有秋中学校 三クラス
市川市立第一中学校 五クラス

市川市立南行徳中学校 一クラス
市川市立福栄中学校 三クラス
市川市立第七中学校 四クラス
習志野市立第六中学校 一クラス
習志野市立第七中学校 二クラス
習志野市立第三中学校 二クラス
習志野市立第一中学校 五クラス
習志野市立第四中学校 四クラス
習志野市立河原塚中学校 五クラス
松戸市立第一中学校 五クラス
松戸市立金ヶ作中学校 一クラス
松戸市立第四中学校 四クラス
松戸市立牧野原中学校 三クラス
松戸市立小金北中学校 二クラス
松戸市立第二中学校 三クラス
松戸市立新松戸南中学校 一クラス
松戸市立小金中学校 五クラス
松戸市立第六中学校 一クラス
松戸市立第三中学校 二クラス
松戸市立六実中学校 二クラス
成田市立公津の杜中学校 一クラス
船橋市立海神中学校 二クラス
船橋市立幕張西中学校 一クラス
船橋市立船橋中学校 五クラス
船橋市立八木が谷中学校 四クラス
袖ヶ浦市立平川中学校 三クラス
大網白里市立大網中学校 三クラス
東金市立西中学校 二クラス
東金市立東中学校 二クラス
東金市立北中学校 一クラス
東金市立東金中学校 四クラス
柏市立逆井中学校 三クラス
柏市立富勢中学校 二クラス
柏市立酒井根中学校 三クラス
柏市立土中学校 一クラス
柏市立田中学校 二クラス
柏市立大津ヶ丘中学校 二クラス
柏市立中原中学校 三クラス
柏市立風早中学校 三クラス
柏市立南部中学校 一クラス
柏市立豊四季中学校 六クラス
柏市立柏第二中学校 三クラス
柏市立手賀中学校 一クラス
白井市立桜台中学校 三クラス

白井市立大門口中学校 一クラス
白井市立南山中学校 三クラス
茂原市立西陵中学校 一クラス
野田市立南部中学校 八クラス
野田市立木間ヶ瀬中学校 一クラス
野田市立東部中学校 一クラス
野田市立第一中学校 四クラス
流山市立南部中学校 二クラス
流山市立西初石中学校 三クラス
流山市立北部中学校 三クラス
流山市立常盤松中学校 四クラス
流山市立南流山中学校 二クラス



●東京都
あきる野市立西中学校 三クラス
あきる野市立秋多中学校 五クラス
江戸川区立篠崎第二中学校 一クラス
世田谷区医師会立看護高等専修学校 一クラス
青梅市立第三中学校 三クラス
日本聾話学校 一クラス
江戸川区立篠崎中学校 一クラス
江戸川区立東葛西中学校 一クラス
渋谷区立松濤中学校 一クラス
台東区立忍岡中学校 一クラス
板橋区立板橋第二中学校 一クラス
板橋区立志村第一中学校 二クラス
練馬区立旭丘中学校 二クラス
立川市立立川第七中学校 一クラス
中野区立第五中学校 一クラス

●神奈川県
綾瀬市立城山中学校 三クラス
伊勢原市立伊勢原中学校 三クラス
横須賀市立岩戸中学校 一クラス
横須賀市立田浦中学校 一クラス
横須賀市立都岡中学校 一クラス
横須賀市立南希望が丘中学校 二クラス
横濱市立西谷中学校 六クラス
川崎市立宮崎中学校 一クラス
川崎市立宮前平中学校 四クラス
川崎市立向丘中学校 二クラス
川崎市立平中学校 三クラス
川崎市立野川中学校 一クラス
川崎市立有馬中学校 二クラス
川崎市立御幸中学校 一クラス
川崎市立塚越中学校 一クラス
川崎市立西高津中学校 四クラス
川崎市立高津中学校 二クラス
川崎市立東橋中学校 四クラス
川崎市立橋中学校 八クラス
川崎市立川崎中学校 三クラス
川崎市立京町中学校 二クラス
川崎市立南大師中学校 一クラス
川崎市立根本中学校 一クラス
川崎市立渡田中学校 一クラス
川崎市立川中島中学校 二クラス
川崎市立臨港中学校 一クラス
川崎市立富士見中学校 三クラス
川崎市立稲田中学校 六クラス
川崎市立菅中学校 三クラス
川崎市立中野島中学校 五クラス
川崎市立南生田中学校 二クラス
川崎市立井田中学校 一クラス
川崎市立宮内中学校 四クラス
川崎市立平間中学校 一クラス
川崎市立玉川中学校 一クラス
川崎市立住吉中学校 三クラス
川崎市立西生田中学校 三クラス
川崎市立王禅寺中央中学校 一クラス
川崎市立柿生中学校 二クラス
川崎市立長沢中学校 三クラス
川崎市立白鳥中学校 三クラス
藤沢市立湘洋中学校 一クラス
藤沢市立御所見中学校 一クラス

藤沢市立明治中学校 二クラス
●山梨県
甲府市立上条中学校 四クラス
甲府市立城南中学校 一クラス
甲府市立北中学校 一クラス
甲府市立東中学校 四クラス
甲府市立西中学校 三クラス
中央市立田富中学校 一クラス
笛吹市立春日居中学校 二クラス
南アルプス市立若草中学校 一クラス
南アルプス市立甲西中学校 一クラス
身延町立中富中学校 一クラス
西桂町立西桂中学校 二クラス
富士吉田市立下吉田中学校 六クラス
富士吉田市立明見中学校 四クラス
富士吉田市立吉田中学校 二クラス
富士吉田市立富士見台中学校 一クラス



塩尻市立塩尻中学校 二クラス
塩尻市立塩尻中学校 二クラス
岡谷市立岡谷北部中学校 三クラス
岡谷市立岡谷西部中学校 二クラス
岡谷市立岡谷東部中学校 四クラス
岡谷市立岡谷南部中学校 二クラス
阿智村立阿智中学校 一クラス
阿南町立阿南第一中学校 一クラス
高森町立高森中学校 三クラス
松川町立松川中学校 一クラス
泰阜村立泰阜中学校 一クラス
大鹿村立大鹿中学校 一クラス
天龍村立天龍中学校 一クラス
山ノ内町立山ノ内中学校 一クラス
木島平村立木島平中学校 二クラス
野沢温泉村立野沢温泉中学校 一クラス
栄村立栄中学校 一クラス
茅野市立長峰中学校 二クラス
茅野市立東部中学校 五クラス
茅野市立永明中学校 二クラス
駒ヶ根市立赤穂中学校 一クラス
駒ヶ根市立東中学校 一クラス
佐久市立白田中学校 二クラス
佐久市立東中学校 二クラス
佐久市立中込中学校 一クラス
佐久市立野沢中学校 一クラス
青木村立青木中学校 二クラス
長和町立和田中学校 一クラス
小諸市立小諸東中学校 五クラス
小諸市立芦原中学校 四クラス
松本市立梓川中学校 二クラス
松本市立鎌田中学校 四クラス
松本市立菅野中学校 一クラス
松本市立明善中学校 一クラス
松本市立信明中学校 二クラス
松本市立筑摩野中学校 二クラス
松本市立松島中学校 四クラス
松本市立波田中学校 一クラス
松本市立山辺中学校 一クラス
辰野町立辰野中学校 三クラス
南箕輪村立南箕輪中学校 一クラス
飯島町立飯島中学校 一クラス
箕輪町立箕輪中学校 四クラス
小布施町立小布施中学校 二クラス
小川村立小川中学校 一クラス

信濃町立信濃小中学校 二クラス
飯綱町立飯綱中学校 一クラス
組合立依田窪南部中学校 一クラス
上田市立第一中学校 三クラス
上田市立丸九子中学校 二クラス
上田市立第五中学校 三クラス
上田市立真田中学校 二クラス
上田市立第四中学校 三クラス
上田市立丸九子北中学校 四クラス
上田市立第二中学校 二クラス
上田市立第三中学校 三クラス
上田市立塩田中学校 二クラス
坂城町立坂城中学校 四クラス
下諏訪町立下諏訪社中学校 一クラス
原村立原中学校 二クラス
諏訪市立上諏訪中学校 二クラス
諏訪市立諏訪南中学校 一クラス
諏訪市立諏訪南中学校 四クラス
須坂市立東中学校 二クラス
須坂市立相森中学校 一クラス
須坂市立常盤中学校 二クラス
須坂市立墨坂中学校 三クラス
千曲市立屋代中学校 三クラス
千曲市立戸倉上山田中学校 二クラス
大町市立第一中学校 二クラス
大町市立八坂中学校 一クラス
中野市立高社中学校 一クラス
中野市立南宮中学校 二クラス
中野市立中野平中学校 四クラス
飯山市立城北中学校 三クラス
飯山市立城南中学校 四クラス
飯山市立裾花中学校 二クラス
長野市立広徳中学校 五クラス
長野市立立徳中学校 二クラス
長野市立立無里中学校 一クラス
長野市立戸隠中学校 一クラス
長野市立三陽中学校 七クラス
長野市立柳町中学校 三クラス
長野市立篠ノ井東中学校 三クラス
長野市立篠ノ井西中学校 四クラス
長野市立松代中学校 五クラス
長野市立西部中学校 二クラス
長野市立更北中学校 一クラス

長野市立犀陵中学校 一クラス
 長野市立川中島中学校 三クラス
 長野市立東北中学校 三クラス
 東御市立東部中学校 三クラス
 組合立筑北中学校 一クラス
 飯田市立高陵中学校 三クラス
 飯田市立竜峽中学校 二クラス
 飯田市立旭ヶ丘中学校 五クラス
 飯田市立鼎中学校 三クラス
 飯田市立遠山中学校 一クラス
 松川村立松川中学校 一クラス
 白馬村立白馬中学校 一クラス
 御代田町立御代田中学校 二クラス
 立科町立立科中学校 二クラス
 木曾町立福島中学校 一クラス
 上田市立第六中学校 三クラス



●新潟県
 魚沼市立入広瀬中学校 一クラス
 新潟市立金津中学校 一クラス
 新潟市立大形中学校 一クラス
 新潟市立白井中学校 一クラス
 ●富山県
 上市町立上市中学校 一クラス
 砺波市立出町中学校 一クラス
 富山市立奥田中学校 六クラス
 富山市立水橋中学校 一クラス

片山学園中学校 三クラス
 富山市立北部中学校 六クラス
 富山市立和合中学校 四クラス
 ●福井県
 福井県立金津高等学校 一クラス
 福井県立敦賀高等学校 二クラス
 福井県立啓新高等学校 一クラス
 ●岐阜県
 日本中央看護専門学校 一クラス

●静岡県
 伊東市立宇佐美中学校 三クラス
 伊東市立門野中学校 三クラス
 伊東市立南中学校 五クラス
 伊東市立北中学校 一クラス
 伊豆の国市立大仁中学校 三クラス
 伊豆の国市立長岡中学校 四クラス
 伊豆の国市立葦山中学校 五クラス
 伊豆市立天城中学校 一クラス
 伊豆市立肥田中学校 二クラス
 掛川市立西中学校 五クラス
 掛川市立東中学校 五クラス
 掛川市立北中学校 一クラス
 掛川市立栄川中学校 一クラス
 菊川市立岳洋中学校 一クラス
 菊川市立菊川西中学校 五クラス
 湖西市立新居中学校 五クラス
 御前崎市立浜岡中学校 六クラス
 御殿場市立原里中学校 四クラス
 御殿場市立西中学校 三クラス
 御殿場市立高根中学校 一クラス
 御殿場市立南中学校 五クラス
 御殿場市立御殿場中学校 四クラス

三島市立中郷中学校 二クラス
 三島市立錦田中学校 四クラス
 三島市立北上中学校 一クラス
 三島市立中郷西中学校 四クラス
 三島市立南中学校 一クラス
 三島市立北中学校 五クラス
 森町立旭ヶ丘中学校 三クラス
 小山町立北郷中学校 二クラス
 清水町立清水中学校 六クラス
 清水町立南中学校 一クラス

長泉町立長泉中学校 一クラス
 長泉町立北中学校 五クラス
 沼津市立門池中学校 四クラス
 沼津市立第三中学校 六クラス
 沼津市立第一中学校 二クラス
 沼津市立原中学校 二クラス
 沼津市立戸田中学校 一クラス
 沼津市立第五中学校 五クラス
 沼津市立静浦小中一貫学校 一クラス
 沼津市立片浜中学校 二クラス
 沼津市立金岡中学校 五クラス
 沼津市立愛鷹中学校 三クラス
 沼津市立大岡中学校 六クラス
 沼津市立大平中学校 一クラス
 沼津市立浮島中学校 三クラス
 沼津市立第四中学校 三クラス
 沼津市立長井崎中学校 一クラス
 沼津市立大井川中学校 三クラス
 焼津市立焼津中学校 一クラス
 焼津市立立深良中学校 一クラス
 吉田町立吉田中学校 一クラス
 裾野市立富岡中学校 四クラス
 裾野市立東中学校 一クラス
 裾野市立須山中学校 一クラス
 裾野市立須山中学校 四クラス
 静岡市立駿機中学校 二クラス
 静岡市立美和中学校 二クラス
 静岡市立西奈中学校 三クラス
 静岡市立籠上中学校 三クラス
 静岡市立高松中学校 二クラス
 静岡市立豊田中学校 一クラス
 静岡市立清水飯田中学校 四クラス
 静岡市立清水第七中学校 三クラス
 静岡市立由比中学校 二クラス
 袋井市立袋井南中学校 二クラス
 袋井市立周南中学校 二クラス
 袋井市立袋井中学校 五クラス
 島田市立島田第一中学校 五クラス
 島田市立北中学校 一クラス
 島田市立初倉中学校 三クラス
 藤枝市立岡部中学校 三クラス
 藤枝市立藤枝中学校 五クラス
 藤枝市立青島中学校 七クラス
 藤枝市立西益津中学校 二クラス

藤枝市立青島北中学校 一クラス
 藤枝市立大洲中学校 三クラス
 熱海市立多賀中学校 三クラス
 熱海市立泉中学校 一クラス
 磐田市立豊田南中学校 四クラス
 浜松市立湖東中学校 二クラス
 浜松市立舞阪中学校 三クラス
 浜松市立雄踏中学校 二クラス
 浜松市立西部中学校 二クラス
 浜松市立佐鳴台中学校 一クラス
 浜松市立高台中学校 一クラス
 浜松市立春野中学校 一クラス
 浜松市立天竜中学校 三クラス
 浜松市立東部中学校 一クラス
 浜松市立麗玉中学校 四クラス
 浜松市立細江中学校 二クラス
 浜松市立都田中学校 一クラス
 浜松市立三方原中学校 六クラス
 富士宮市立柚野中学校 一クラス
 富士宮市立富士根南中学校 四クラス
 富士宮市立富士根北中学校 一クラス
 富士宮市立井之頭中学校 一クラス
 富士宮市立芝川中学校 二クラス
 富士宮市立富士宮第二中学校 三クラス
 富士宮市立北山中学校 二クラス
 富士宮市立大富士中学校 五クラス
 富士宮市立富士宮第三中学校 四クラス
 富士宮市立富士宮第一中学校 六クラス
 富士市立吉原第一中学校 五クラス
 富士市立富士川第一中学校 二クラス
 富士市立鷹岡中学校 四クラス
 富士市立吉原北中学校 二クラス
 富士市立吉原第二中学校 六クラス
 富士市立岩松中学校 五クラス
 富士市立富士南中学校 一クラス
 富士市立大淵中学校 四クラス
 富士市立田子浦中学校 四クラス
 富士市立富士中学校 六クラス
 富士市立立津中学校 二クラス
 富士市立立陽中学校 五クラス
 富士市立立岳陽中学校 三クラス
 富士市立吉原第三中学校 三クラス
 富士市立元吉原中学校 一クラス
 牧之原市立相良中学校 四クラス
 組合立牧之原中学校 一クラス

藤枝市立西益津中学校 二クラス

●愛知県
 一宮市立今伊勢中学校 三クラス
 名古屋国際中学校・高等学校 二クラス
 名古屋経済大学高蔵高等学校 三クラス
 名古屋ユマニクス歯科製菓専門学校 二クラス
 ●大阪府
 開明高等学校 一クラス
 近畿大学附属高等学校 一クラス
 ●兵庫県
 兵庫県立日高高等学校看護専攻科 一クラス
 ●和歌山
 開智高等学校 一クラス

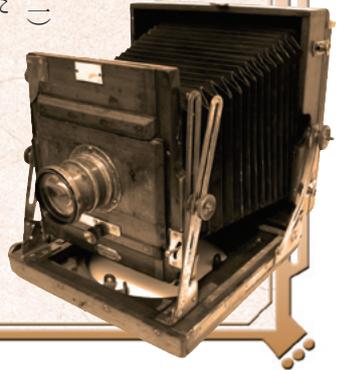
●徳島県
 徳島県立徳島北高等学校 一クラス
 徳島県立城東高等学校 二クラス
 徳島県立城北高等学校 一クラス
 ●高知県
 香美市立山田小学校 七名
 ●佐賀県
 佐賀市立諸富中学校 三クラス

藤枝市立西益津中学校 二クラス



藤枝市立西益津中学校 二クラス

天神さん 思い出写真館



上の写真は、明治三十五年（一九〇二）齋行の一千人大萬燈祭に際し撮影された一枚である。写真説明には「正遷宮御鎮坐後庭上ノ光景」と書かれている。三光門を入ってすぐの中庭で、本殿側から撮ったものである。

写っているのは正遷宮の行列に参列した人で、前の方にいるのは楽人である。『千年祭北野会誌』によれば、当日の楽人として十二人の氏名が列記されており、相当華やかな奏楽だったことがうかがえる。

下の画は、それより五十年前、嘉永五年（一八五二）齋行の九百五十年大萬燈祭の正遷宮の風景である。行列がまさに三光門を入ろうとするところを描いている。先頭集団に「楽人」として、かなりの人数がいる。千年祭は九百五十年祭を手本としており、幕末の正遷宮の楽人も十二人だったのかもしれない。



天神さんの細道

天神さん七不思議（その一）

影向松



表参道の大鳥居（一ノ鳥居）をくぐつてすぐ右手に、石の玉垣をめぐらせた一本の松がある。毎年三冬（初冬より節分まで）の間に初雪が

降ると、天神さまが降臨され雪見の歌を詠まれるという伝説があり、その時は硯・筆・墨をとりそろえてお供えし初雪祭を行う。菅原道真公は天台座主尊意より仏舍利を伝播し、常に襟に掛けて護持されていたが初雪の降った日にこの掛舍利が大宰府より飛来してこの枝にかかったと伝えられ、以後この松を影向松と呼ぶようになった。



宝物殿特別公開（十一月二日より）

「国宝・重文」展

新指定の「神人文書」も特別公開



史跡御土居「もみじ苑」の公開に合せ十一月一日から宝物殿で特別展『よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物―国宝・重要文化財の数々』を開催する。

この特別展では、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」（承久本）のほか、重文十三点を公開するが、中でも今年三月に重

文指定されたばかりの「北野西京神人文書（きたのにしきのきょうじんもんじょ）」が、指定を記念して特別公開される。

「北野西京神人文書」は、中世に酒麴生産の独占権を持っていた北野社の神人に伝来してきた文書であり、当宮所蔵の南北朝期から江戸期にかけての九十九点が新しく重文指定された。

特別展での公開に先立ち五月二十七日、社務所大広間に新指定の文書を並べ、記者会見が行われた。文書の研究に当たられた藤井謙治京都市大名誉教授は「重文指定された神人文書は中世京都の商業史・産業史・都市史などを研究する上で欠かすことのできない貴重な史料」と話されている。

なお、特別展開催は、前期が十一月一日から十二月七日、後期が来年一月十日から三月下旬。

梅風会だより

●太宰府天満宮において

全国天満宮梅風会総会開催

全国天満宮梅風会（本部・当宮）の第四十八回総会が福岡県太宰府市の太宰府天満宮を主会場に六月二、三の両日、全国から約一三〇人が参加して開かれた。

二日正午すぎ、太宰府天満宮へ正式参拝同宮余香殿で総会を開いた後、味酒安則同宮禰宜の「黒田官兵衛の天神信仰」と題する講演を聴いた。

翌三日は歴史の町・日田豆田のまち（大分県日田市）の散策などが行われた。



赤嶋さんが自作の絵画を奉納

京都市中京区、会社代表取締役赤嶋貞宏さんが全国公募の「第十六回京都墨彩画壇展」（四月二十九日～五月四日、京都市美術館別館）に出品、入賞した当宮境内を描いた水彩画を奉納され、五月二十七日午後二時から本殿において奉納奉告祭を斎行した。奉納作品は、本殿東側から地主社を描いた雪の中の風景（百号）で京都新聞社賞を受賞した。奉告祭には赤嶋さん、妻昌代さんら家族・会社の五人が参列され、祭典後、作品は社務所大広間に飾られた。赤

嶋さんは「天満宮は学問の神さまであり、書道や絵画上達にも

ご利益のある神を置いた本殿でお祓いを受け、大変緊張しました」と、話されていた。

ボーイスカウト第八十五団だより

●平成二十六年年度育成会総会開催

当宮に本部を置くボーイスカウト京都第八十五団育成会（会長橋重十九宮司）の平成二十六年度総会が四月二十九日午後四時から社務所大広間で開催された。

国旗儀礼の後、橋会長が「御祭天神様の御膝元で、元気で活発に活動する子どもたちの姿は何より尊いものである。現在全国的にスカウト数減少が叫ばれ、当団に於いても

例外ではないが、スカウト活動を通じて成長し、社会で立派に活躍されている方々がたくさんおられるのも事実。今一度発団の原点に立ち返り、充実したスカウト活動が展開されることを願っている」と、挨拶した。



この後議事に入り、平成二十五年度の活動報告・決算報告、二十六年年度の活動計画案・予算案を承認した。

平成二十六年度の主な活動計画は次の通り。

▽バザー（十月二十五日）▽餅つき大会（十二月二十三日）▽火縄奉仕（同三十一日）▽正月参拝者奉仕（二十七年一月一日）▽ヤチマタ募金（同三日）▽全国女子駅伝沿道奉仕（一月十一日）▽全国車イス駅伝沿道奉仕（三月三日）▽うどん奉仕（二月と三月の日曜日二回・絵馬所）

●カブ隊春キャンプ実施

ボーイスカウト

京都第八十五団（本部当宮）は、カブ隊の春キャンプを五月十七・十八日の一泊二日の日程で、隊員・指導者ら十二人が参加し、南丹市の日吉山の家で実施した。



神若会だより

●新メンバー三人入会

～元氣ハツラツ！

仁和小学校和太鼓クラブ卒業生～

神若会北野天神太鼓会に、新たに三名のメンバーが加わった。

田淵友佳さん、田中明日音さん、竹村青依さんの三人。いずれも氏子地域にある仁和小学校の和太鼓クラブに所属していた女の子で、中学校入学を機に北野天神太鼓会

の正式メンバーとして入会した。「しっかりと練習して、早くみんなに追いつきたい」と意気込んでいる。

●天神太鼓会 縁日太鼓奉納

四月・五月・六月の各縁日、恒例の天神

太鼓を午後六時より神楽殿で披露した。



境内には、参拝者をはじめ外国人観光客の姿も多く見られ、和太鼓の力強い演奏に耳を傾けていた。

●瑞饋祭 松鉾の提灯を奉納

～神若会 会長 柴田晃一郎氏～

北野天満宮の若手で構成される崇敬団体である神若会の柴田晃一郎会長が、瑞饋祭で供奉する松鉾の提灯一对をこのほど新調し、奉納された。



松鉾の提灯は長年風雨にさらされ傷みが激しかったことから、神若会結成当初から松鉾の奉仕をしている柴田氏が「ぜひ新調したい」との強い思いにより実現した。新調した提灯は今年の瑞饋祭において初披露される。

献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠われました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

四月「寢覚め」

胸像を訪なふ境内に寢覚めよき

パール判事の自動音声

寢覚めよき朝にピオラのCDを

流してはじむゴミの分別

寢覚め鳥夜明けをしらす声すれど

夢のつづきをおぼろげに追ふ

そこはかとゆるやかなりて寢覚ぬる

時にけらし嬉しと思ほゆ

寢覚れば早朝刊の音のして

新聞少年かけ足で去る

暗き夜の千千にくだけし夢去れば

寢覚めの床にほふ花の香

湖に春の名残の波打てば

竹生の松も寢覚め始めぬ

花咲雪閑の古屋もかすみつつ

寢覚めむわれにつもうりずめむ

寢覚めれば一分が五分に笑み咲きぬ

一夜ぬくもり驚きにけり

寝ざめして障子に射せる春の陽の

向こうに子らのおはよの声

神床にありて寢覚めし大和人ぞ

国を豊けく導けるかな

風の音に花の薫れる夜の

寢覚めかたへの君ぞ花にまされる

目守らなば寢覚めの花もたちまちに

もとの蕾ともこそなるらめ

佐保姫の霞の衣着て寢れば

朝夕も分かたぬ寢覚め

うららかに眠り誘ひし春の日の

寢覚めおぼろに蝶々の舞ふ

はや幾夜揺られしかな波枕

目覚めて遠き君の面影

春の夜の寢覚め果敢無し現とも

おぼえで君を送る袖が香

福井県 武曾 豊美

大阪府 村島 麗門

愛知県 鈴木 幸子

京都市 今井 輝子

岐阜県 波多野千寿子

神戸市 斎藤 興哉

京都市 若狭 静一

京都市 塩小路光孚

愛知県 仁枝 尚子

京都市 石原 臯月

東京都 白石 雅彦

京都市 工藤 大介

京都市 石山 裕菜

京都市 上杉 遥

京都市 智野利恵子

京都市 朝比奈栄子

京都市 田口 稔恵

五月「杜若」

常緑杜の息吹きに包まれて

いのち常若産土の神

なにゆゑに杜若絵図生花より

水の涼しき伝はれるかな

業平の東下りの旅景色

三河八橋杜若賞づ

姿よし群生もまたいじらしき

かきつばた花いとしませり

亡き母の好みし花の杜若

早咲きたるを墓前に供ふ

垣越しに希偶むらさき露に

ゆるはかなき八日佇み魅入る

つばくろはな急きそ庭の杜若

描くまで羽を枝に休めよ

上賀茂の大田のやしろ杜若

千代に栄へてめでたかりけり

賀茂の沢八重杜若咲きぬれば

東なりける君ぞ思はる

薫風に戯れ揺るる杜若

揚羽蝶舞ふ臯月麗し

紫のゆかり恋しきかきつばた

訪ぬる人のいづこにかある

風そよぐ御前の池の杜若

近衛のごとくすくと立ちたり

福井県 武曾 豊美

大阪府 村島 麗門

愛知県 鈴木 幸子

京都市 今井 輝子

岐阜県 波多野千寿子

愛知県 仁枝 尚子

京都市 若狭 静一

東京都 白石 雅彦

京都市 工藤 大介

長岡京市 智野利恵子

京都市 石山 裕菜

京都市 朝比奈栄子

六月「沙羅」

サラの花色にも見ゆる現世に

生きとし生けるものみな運命

漱石のころの文庫手に持ちて

目の前の沙羅白きを見つむ

眞白きの姿を見せてときしらす

沙羅の花影思ひしらずて

きざはしを登り登りて拜するは

名木沙羅の白き夏花

炎天下我が怠慢を叱るごと

白く可憐な沙羅の花咲く

咲く雅散るも雅の一日を

ニユートン知るや沙羅の満つ庭

あはれなり鐘の音さそふ沙羅の花

うるはしき人の精宿りしか

水無月に盛り迎へしきらの花

殊にましろきひと日の命

たまゆらに沙羅は白みて落ちぬれど

こひと咲きたるさうびぞあだなれ

常無しと知ればはかなしその命

秋津かげろふ花沙羅双樹

沙羅の花夕べに落つる儚さも

闇に染まらず白く清げに

なほ白し咲きつつ落ゆる沙羅の花

ほろほろ聞こゆは君が涙か

短夜に衣かたく枕辺の

空音虚しく沙羅のこぼるる

福井県 武曾 豊美

大阪府 村島 麗門

京都市 今井 輝子

愛知県 鈴木 幸子

岐阜県 波多野千寿子

京都市 若狭 静一

愛知県 仁枝 尚子

京都市 石原 臯月

京都市 工藤 大介

東京都 白石 雅彦

長岡京市 智野利恵子

京都市 石山 裕菜

京都市 朝比奈栄子

【評】眠りの前後で外の情景が変わっていること、また心境の変化を詠むもの、観念としての眠りを詠むものなどさまさま見られた。身近にありながら捉えきれない眠りの時間を、和歌は捉え続けてきた。

【評】杜若といえば伊勢物語の業平東下りの段を想起される方も多いただろう。有名な唐衣の歌にちなんでか、仁枝作品のように折句の歌がいくつも見られた。武曾作品は「杜若」の文字を詠み込んでいる。

【評】花の白さに、生のはかなさを見る歌が多くみられた。釈迦涅槃の沙羅双樹と日本のシヤラ(ナツツバキ)は別種だが、かえって無常を感じる風情である。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

**新郎新婦様、御両家の皆様のため
末永いご多幸をご祈念申し上げます。**

| | | | | |
|----|------|-------|---------|-----|
| 四月 | 五日 | 古川 | 智也・順子 | ご夫妻 |
| 四月 | 六日 | 佐藤 | 圭・李娜 | ご夫妻 |
| 四月 | 十二日 | 大村 | 晃宏・まどか | ご夫妻 |
| 四月 | 二十六日 | 丹羽 | 大樹・真里子 | ご夫妻 |
| 五月 | 四日 | 木村 | 邦生・梨加 | ご夫妻 |
| 五月 | 六日 | 清水 | 拓郎・多美子 | ご夫妻 |
| 五月 | 六日 | 井澤 | 英孝・沙折 | ご夫妻 |
| 五月 | 十八日 | 山川 | 太士・由樹 | ご夫妻 |
| 五月 | 二十四日 | 山下 | 幸宏・美由起 | ご夫妻 |
| 五月 | 三十一日 | 山村 | 楠典・真由美 | ご夫妻 |
| 六月 | 二日 | 高橋 | 克則・舞 | ご夫妻 |
| 六月 | 七日 | 和田 | 亮介・朱美 | ご夫妻 |
| 六月 | 十四日 | 山本 | 久生・準子 | ご夫妻 |
| 六月 | 十八日 | ピヤナット | ソイカム・彩音 | ご夫妻 |
| 六月 | 十八日 | 蔦 | 清行・周子 | ご夫妻 |
| 六月 | 二十日 | 都築 | 茂記・麻由 | ご夫妻 |

挙式された皆様（四月～六月）

| | | |
|----|---------|---------------|
| 四月 | 三日（木） | SKY歴史ウォーキング会 |
| 四月 | 二十一日（月） | 右京区嵯峨野社会福祉協議会 |
| 六月 | 二日（月） | 日本吟詠総連盟近畿地区 |
| 六月 | 七日（土） | 東寺宗務総長 橋本尚信 |
| 六月 | 九日（月） | 綱敷天満宮奉賛会 |
| 六月 | 十四日（土） | 大形神社 |



正式参拝された皆様（敬称略）（四月～六月）

**荘厳華麗な国宝の御本殿
北野天満宮 神前結婚式受付**

北野の天神さんと親しまれる当宮は、天暦元年（九四七）に皇城鎮護の神としてご鎮座になり、学問の神様菅原道真公をお祀りする全国天満宮の総本社、天神信仰の中心をなすお社です。

現在の御本殿は、豊太閤の遺命により豊臣秀頼公が慶長十二年（一六〇七）に造営され、権現造りの根源といわれている「八棟造」で国宝に指定されています。「四脚唐門の中門（三光門）」や「東門」も桃山時代の代表的な建造物として重要文化財に指定されています。この由緒ある当宮こそ、お二人が永遠の愛を誓い合い、幸せな人生に向かってのスタート地点として、もっともふさわしい場所なのです。

神前結婚式の申し込みについて

- 日時決定後当宮所定の用紙にてお申し込みください。尚、本殿にて祭典がある日は挙式をご奉仕できないことがあります。
- 当日の控室は社務所にて準備致します。
- 挙式参列者の方は三十分前までに社務所にお集まりください。

【北野天満宮幸梅会】

お二人の幸せを願ってまごころこめてご婚礼のお手伝いを致します。

- ・ プライダルハウスオエ
- ・ ビューティサロンオーク・ヘア
- ・ Photo Studio 松本写真館
- ・ 京菓匠 鶴屋吉信
- ・ 京料理 萬重

◎お申込受付

オーク・ヘア
☎ 〇七五(四六二)〇九七〇



**北野天満宮講社
入講のご案内**

本講社は心から「天神さま」を慕い、大切に考えていただく崇敬者の集いです。

神を敬い人を愛する優しい心から「天神さま」を大切に想い、本講社の諸活動にご賛同いただける方はどなたでも入講できます。

本講社は年会費による登録会員制となっておりますので、入講の方には毎年継続のご案内を差し上げます。

〈主な活動事業〉

- ・ 「講社大祭」斎行
- ・ 国宝本殿を始めとする文化財並びに境内風致の維持管理
- ・ 境内施設の整備拡充

〈会員の特典〉

- ・ 毎朝ご神前にて会員の皆様の家内安全・学業成就・諸願成就を特別に祈禱いたします。
- ・ 講社大祭のご案内を差し上げます。

〈会員種別と会費（年額）〉

| | |
|--------|-------|
| 特別名誉会員 | 三万円以上 |
| 名誉会員 | 一万円以上 |
| 有効会員 | 五千円以上 |
| 正会員 | 三千円以上 |
| 普通会員 | 千円以上 |



入講を希望される方は、北野天満宮社務所までご連絡ください。（電話 〇七五-四六一-〇〇〇五）

天神さまの秋まつり

瑞饋祭

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代、天慶九年(九四六)〜康保四年(九六七)にはじまると伝えられています。

中でも四日の還幸祭は、「おいでまつり」の別名が示すように、「大宰府で御隠れになられた菅原道真公の御霊が、神様として初めて北野の地においでになる」という御鎮座の由来を回顧し、再現するという意味があります。

年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を「お迎えする」ことで、氏神としての天神さまを改めて意識し感謝する心が育まれるのです。

還幸祭渡御には、御鳳輦三基・御羽車一基・瑞饋御輿大小二基などが出御、その他供奉者等あわせて総勢二〇〇名が氏子区域を巡行します。



第一鳳輦(村上天皇御寄進)とずいき御輿

| ●祭礼日程 | |
|-------|---------------|
| 一日 | 神幸祭 午後一時 行列出発 |
| | 午後四時 御旅所到着 |
| 二日 | 午前十時 献茶祭 |
| | (表千家宗匠奉仕) |
| 三日 | 午後二時 甲御供奉饗 |
| | (七保会奉仕) |
| 四日 | 還幸祭 午後二時 行列出発 |
| | 午後四時半 本社到着 |
| 五日 | 午後二時半 后宴祭 |
| | (八乙女舞奉納) |



七五三詣は知恵の神様 北野天満宮へ



七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。北野天満宮は、全国天満宮の総本社です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない存在です。

天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様のご加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いでのご参拝をお待ちいたしております。

- 一、受付日 十一月中 毎日 受付いたします。
- ※但し、十一月二十三日(日)、十一月二十六日(水)は、祭典のためご祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。
- ※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。
- 一、七五三詣初穂料 一人 五千円より
- 二人 八千円(兄弟姉妹に限る)
- 三人 一万二千元(兄弟姉妹に限る)
- 一、授与品・記念品 知恵守、千歳飴、祝い笹、ディスプレイの学用品セット
- 一、案内状持参の特典 特別授与品の「勾玉」を進呈

御縁日 境内ライトアップ



毎月25日は天神さんの御縁日。夜9時まで境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円(1年分) 季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

今昔マップ



平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くより天のエネルギー、パワーの働く北野の地に祀られています。平安京の内裏、大極殿北西に位置し三光門の真上に北極星が輝き、天子様が北極星を拝する聖なる社でした。平安京の大極殿(遷都より600年の間)は今の京都御所の西にありました。紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に当宮が建てられています。

| | |
|--|--------------|
| | 平安京 (大内裏) |
| | 大極殿 (昔の御所) |
| | 京都御所 (現在の御所) |